

## VI 指導法改善のポイント

### I 国語

#### 小学校第5学年【国語】

#### ◆ 授業改善のポイント

- 児童が主体的に言語活動に取り組むには、相手や場面を意識させたり、目的や意図を明確にさせたりすることが大切です。また、メモや付箋などで情報を可視化し整理したり、振り返りを通して内容や方略をメタ認知したりする機会を多く位置付けることが重要です。
- 児童の言語活動を充実させるためには、「語彙」や「文や文章」などの〔知識及び技能〕に関する指導事項を、実際の言語活動の中で活用できるようにすることが重要です。特に、「話す・聞く・読む・書く」活動において、意図的・計画的に言葉を取り上げ、話や文章の中でどのように用いられているかを捉えさせるとともに、理解や表現の場面で適切に使えるよう指導する必要があります。

#### ◆ 今回の調査結果から明らかになった成果と課題

- 成果： 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力が一定程度身に付きつつあります。
- 課題： ① 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解する力が不十分です。  
② 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることが不十分です。

#### ◆ 成果が見られた問題の概要 「大問4(2) (書くこと)」（思考・判断・表現）

##### 【設問の概要】

- 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみます。

【報告する文章の一部】の▼から▲までの文章の中で、山下さんは【グラフ】を使って説明しています。その説明の仕方を表した文としてふさわしいものを、選択肢から一つ選びましょう。

山下さんは、国語の授業で話題になった「読書」について自分の考えをまとめました。次の【報告する文章の一部】と【グラフ】を読んで、あとの問いに答えましょう。

▼  
わたしの考えは、読書は感動を味わったり知識を広げたりできる、とても大切なものだというのがわたしの考えです。このまま読書の量がへり続け、0さつになってはいけないので、ある計画を立てることになりました。それは、毎日夜の九時から九時半までを読書時間と決めて、必ず本を読むようにするという作戦です。この作戦を実行すれば、わたしは中学生、高校生になっても、本を読む習慣を続けられると考えています。

▲

【報告する文章の一部】  
わたしは、四年生のころは月に十さつほど、本を読んでいた。ところが五年生になってからは、月に五さつくらいにへっていたのです。ゲームをする時間がふえたせいで、読書時間がへったためです。  
▼みんなはどうなのだろうと思ひ、調べてみました。下のグラフの「11さつ以上」の部分の変化を見てください。小学生から中学生、高校生と学年が上がるにつれて、11さつ以上本を読む人がへっていることが分かります。次に、「0さつ」の部分の変化はどうでしょうか。こちらは反対に、学年が上がるほどふえています。全体としては、学年が上がるほど読書の量がへているといえそうです。

平均正答率 (%)	本県	市町村	自校
	64.1		

##### 【選択肢】

- 1 グラフだけでは分からないことを言葉で付け加えながら説明している。
- 2 言葉と関係のないグラフを示すことで、読者の考えを広げる説明をしている。
- 3 グラフの中で特に注目してほしいところを言葉で示しながら説明している。
- 4 グラフの数値にぎ問を示すことで読者の考えを深める説明をしている。

##### 【解答類型と反応率】

正答	解答類型	反応率 (%)	自校
	1と解答しているもの	15.3	
	2と解答しているもの	7.6	
◎	3と解答しているもの	64.1	
	4と解答しているもの	12.6	
	無解答	0.5	

##### 【指導継続のポイント】

- 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、書き表し方を工夫する目的は、自分の考えが伝わるようにするためです。「書くこと」の学習を展開する際には、次の二点に留意する必要があります。
- ① 引用すると説得力が増したり、図表を使うと情報が一目で伝わったりするなど、用いることで文章がどのようによくなるか実感を持った体験を位置付けます。
- ② 必要に応じて資料や図表の読み取りを丁寧に行ったり、読み手を意識した交流活動を取り入れたりします。



